

3. 平成29年度春季「防音勉強会」 —「防音対策の初歩」—開催報告

一般社団法人日本音響材料協会
(Acoustic Materials Association of Japan)

平成29年度春季「防音勉強会」(講師：日本音響材料協会技術顧問・宮尾健一氏)が、ローレル三田会議室において開催されました。今回も多くの方に参加を戴き、5月24日(水)と5月31日(水)の両日に開催することになりました。

防音の知識を基本から学びたいビギナーを対象とした、「ゼロからのスタート—防音勉強会—」は、実務経験50余年の講師と、少人数で一緒に勉強するのが特徴となっています。受講対象は、建築系学生、建築設計者、建築施工者、ディベロッパー、防音材営業関係者などで、「防音」の知識を白紙の状態から会得したい方々ですが、毎回多彩な分野から参加載いております。

今回は、教育関係者、建築デザイナー、試験機関、音響材料開発関係者、建材メーカー、機械メーカー、音楽番組制作者などが参加して下さいました。

講師は、長年に亘る経験を基に、防音対策独特の考え方、誤りやすい事項などを視覚的に工夫したパワーポイントにより解説していました。すなわち、実際面を模擬したモデルを用い、音の伝搬形式などの基本事項を理解しやすいように説明していました。

内容は、最も基礎的な事項で、とかく分かりにくい音の単位「デシベル」の特徴とそれを基本とした防音対策の考え方ははじめ、間違いやすい事項をまとめた「音の常識・非常識」、対策を取違えると大事に至る「空気音」と「固体音」の違いとそれぞれに対する対策方針、遮音・吸音・制振・防振のメカニズムと防音対策への適用などを実務的な面も含めて解説していた。

また、騒音計(サウンドレベルメーター)のA特性と聴感との関係、低周波音の意味、ピアノの防音対策の要点、アクティブノイズコントロールの実際等についても事例を用い説明していた。

集合住宅の遮音評価法として、権威のある住宅品質確保促進法については、特に「重量床衝撃音の等級表示」について述べ、この法律の有用性を強調していた。

復習の時間では、履修項目のうち特に重要な事項をまとめて解説していた。



質問の時間では、次のような事項が出されました。これらについては、随時Q & Aコーナーに掲載してゆく予定である。

〔質問事項〕穴あき板の背後に多孔質吸音材を充填した効果、防振ゴム置床・防振天井の仕様、コンクリートブロックの遮音性能、室内における遮音衝立の効果、木造建築物におけるC L T (Cross Laminated Timber)の遮音・床衝撃音遮断性能、など。

このうち、C L Tに関しては、本誌9月号に掲載されます。

「防音勉強会」はビギナーを対象としたものであるが、当協会では、毎年「音響基礎講習会(7月上旬予定)」と「技術講習会(11月予定)」を開催しており、これらにもつながる勉強会である。

今後も「防音の初歩を学ぶ場」として、「防音勉強会(春季、秋季年2回)」を開催してゆく予定である(2017年度秋季は、2017年10月下旬開催予定、HPに掲載)。